

# ナホトカ市概要



ナホトカ湾

2019年8月  
在ウラジオストク日本国総領事館

## 目次

1	位置 .....	2
2	沿革 .....	2
3	気候 .....	2
4	人口・住民 .....	2
5	外交団 .....	2
6	行政・議会 .....	3
7	経済・産業 .....	3
8	治安 .....	4
9	日本との関係 .....	4

## **ナホトカ市概要**

### **1 位置**

(1) ナホトカ市は、ロシア連邦沿海地方の南部に位置し、極東最大の港をもつナホトカ湾に面し、沿海地方で第2に重要な都市である。

(2) 東京からの直線距離は約1,000km、函館とは約420km、ウラジオストクからは180kmである。

### **2 沿革**

(1) ナホトカ市が所在する沿海地方の領域には、古くからツングース系民族が居住しており、渤海(698～926年)、金(女真族, 1115～1234年)等の国家が興亡を繰り返した。また、中世から近世にかけては元、明、清国等の勢力が及んだ時期もあった。

(2) 1850年代前半、東シベリア総督ムラヴィヨフ・アムールスキーの支援を受けたロシア海軍士官ネヴェリスコイが極東地域を探検し、アムール川流域に砦を建設するなど、ロシアの極東進出の足がかりを築いた。その後、ロシアは1858年のアイグン条約締結によりアムール川左岸とその航行権を、また、1860年の露清間の北京条約によりウスリー川東岸を獲得し、これにより現在の沿海地方はロシア領となった。

(3) 1859年、ロシア艦「アメリカ」号が沿海地方の海岸で天然の良港を発見し、この湾を「ナホトカ(ロシア語で「掘り出し物」の意)」と名付けた。ナホトカ湾沿岸への入植は19世紀末に本格化し、1907年、同地にアメリカンカ村が建設された(1940年にナホトカ町となる)。

(4) ナホトカ町は1950年に市に昇格し、港湾都市として発展した。また、ソ連時代には、閉鎖都市となったウラジオストクに代わり、沿海地方の対外的な玄関口としての役割も果たした。シベリア抑留者の日本への帰国港になっていた。現在のナホトカ市は大規模な商業港、漁業コンビナートや石炭・石油コンテナターミナル等を有する極東の物流・漁業の中心地となっている。

### **3 気候**

ナホトカ市は、北緯43度東経133度に位置し、札幌市とほぼ同緯度にある。冬の気候はシベリア奥地ほど厳しくはないものの、1月の平均気温は氷点下5度(昼)と氷点下6.6度(夜)(2019年)、雪は少なく乾いた北風が大陸から海に向かって強く吹き抜ける。モンスーン型気候であり、年間降水量は約790mmで、7月から9月に降雨が多い。8月の平均気温は24度(昼)と17.8度(夜)(2018年)。

### **4 人口・住民**

2019年初のナホトカ市の人口は14万8,280人。住民の大多数はロシア人である。

### **5 外交団**

ナホトカ市には北朝鮮「総領事館」が置かれていたが、2016年にウラジオストク市へ移転された。2003年9月には、北朝鮮の羅先市と友好都市提携に関する協定に署名するなど、北朝鮮との関係は沿海地方の他都市と比べ深い。

## 6 行政・議会

2014年春、地方自治体制度が改正され、市長と市行政府長による二頭体制が敷かれることとなった。同年6月、ナホトカ市議会は全会一致でピリペンコ市議会議長を市長に選出し、7月にはコリヤーディン前市長を初代の市行政府長に選出した。しかし、2015年1月には二頭体制が停止され、また、11月、ピリペンコ市長は辞任した。2016年3月、市議会はゴレロフ市長を選出した。2018年4月、ゴレロフ市長は辞職し、同年6月、市議会はグラトキフ市長を選出した。

## 7 経済・産業

(1) ナホトカ市はロシア極東の交通の要所であり、ロシア全体で見ても海上交通の分野では、サンクトペテルブルク、ノヴォロシースクに次ぐ大規模港湾都市である。2017年のナホトカ諸港の全体の貨物取扱量は9340万トンに達している（注：数値はナホトカ市行政府公表のもの）。港はナホトカ港とヴォストーチヌイ港に大別され、主な取扱貨物は石炭、石油、木材、コンテナである。また、陸路では、ハルビンスイフンヘーウラジオストク港－ナホトカ港－ヴォストーチヌイ港－アジア太平洋の各種港を結ぶ国際輸送回廊プロジェクト「プリモリエ1」の建設の構想がある。

(2) ナホトカ港は、ヴォストーチヌイ港ができるまで極東最大の港であった。ナホトカ商業港（主な取扱貨物は鉄鋼、非鉄金属）、ナホトカ海洋漁業港（水産物、木材、金属製品）等がある。

ヴォストーチヌイ港は極東で最大、ロシア国内でも最大規模の石炭積出港で、2018年の年間石炭輸出量は2420万トンとなっており、輸出先は韓国が最大で全体の32%を占め、続いて日本、台湾の順であった（注：数値は同港公表のもの）（注：数値は同港公表のもの）。また、2009年には東シベリア太平洋原油パイプライン（ESPO）の終着点となるコジミノ港が加わった。同港からの2018年の原油輸出量は3040万トンで、現在も石油タンクを増設中であり、輸出量は今後5000万トンまで増量する予定である。主な輸出先は中国（2427万トン）、日本（260万トン）、韓国（154万トン）（注：数値は同港公表のもの）。なお、同港の電力供給は沿海地方南部への電力供給と同じラインで行われていたが、2015年1月に統一エネルギーシステム社によって、同港に直接電力を供給するための送電設備が整備された。

日本企業との関係では、現在実施中のヴォストーチヌイ港における第3次拡張工事において、丸紅及び三井三池製作所は同港の石炭積出し用機械等の設備拡張を行っており、工事の完成は2019年の予定である。また、2015年9月の第一回東方経済フォーラムにおいて「ヴォストーチヌイ港」社と丸紅他2社がヴォストーチヌイ港第三ラインの建設及び運営に関する文書に署名した。現在スンマ・グループがヴォストーチヌイ港の東隣に同様の石炭ターミナルを建設中である。なお、丸紅は、タラセンコ沿海地方知事代行（当時）が、石炭積替の際に生じる粉塵が環境に悪影響を及ぼすとの理由で、「ウラジオストク漁業港」社及びナホトカ港との間で、石炭積替量を制限する合意書に署名したことと関連し、2018年5月、ナホトカ港アスタフィエフ岬における石炭積替えコンプレクス設計及び建設に関する覚書にも署名した。

また、コジミノ港において石油化学プラント建設計画があり、同計画には三井物産がロシア側とMOUを結んでいる。

## 8 治安

### (1) 犯罪の傾向

ナホトカ市における2018年の犯罪認知件数は2,371件で2015年の3,882件から年々統計上は減少しているが、犯罪発生率（人口10万人あたり）は1,590件で、ロシア平均の1,356件を上回っており治安上の注意は必要である。犯罪の特徴として、窃盗が最も多く（犯罪認知件数の約4割）、スリやひったくり・置き引き等が発生の大半を占めている。

### (2) 安全対策上の留意事項

(ア) 統計上、当地で検挙された犯罪者の約3割は、酒に酔った状態で犯罪を起こしている。市中では酔っ払いと認められる者には安易に近づかず、夜間の外出や単独行動のほか、バーや飲み屋等の深夜帯の利用は避けるようにする。

(イ) 気をつけなければならない犯罪としては、強盗、ひったくり、恐喝、スリ、置き引き等で、夜間の一人歩きや人通りの少ない場所への等への出入りは厳に控えるべきである。

## 9 日本との関係

### (1) 歴史

ソ連時代には、ナホトカが極東における日ソ交流の窓口としての役割を果たしていた。1961年、横浜～ナホトカ間に定期客船航路が開設され、1967年には在ナホトカ日本国総領事館が設置された。

ソ連邦崩壊後の1992年、ウラジオストクが外国人に再び開放されたことを受け、1993年11月に在ナホトカ日本国総領事館が閉鎖され、在ウラジオストク日本国総領事館が開館した。定期客船航路の発着港もウラジオストクとなったが、ナホトカ市には現在も貨物船が就航するとともに経済・文化等の分野で日露交流が継続している。

### (2) 日本人墓地

(ア) 第二次世界大戦終結直前の8月9日に対日参戦したソ連は、8月15日の終戦後も8月下旬から9月初めまで戦闘行為を継続し、翌46年の夏頃までの間に、満州、北朝鮮、南樺太及び千島に駐留していた旧日本軍人等を、旧ソ連、モンゴルに約1200カ所点在していた収容所に抑留し、約10年に亘り土木建築や鉄道建設、炭坑作業等の重労働を強要した。抑留中には労役、病気、寒さ等の厳しい状況の中、多くの方々が犠牲になった。生き残った日本人の多くがナホトカ港より日本へ帰還した。

(イ) ナホトカ市の日本人墓地では、2004年6月から同年9月まで4回に亘り厚生労働省による遺骨収集作業が行われ、524柱が収集された。2012年8月にナホトカ市行政府により、1972年に日本政府が建立した石碑を含む周辺一帯が日本人墓地の記念公園として整備された（同市セニャビナ通り）。

### (3) 自治体交流

ナホトカ市は、舞鶴市、敦賀市、小樽市と姉妹都市関係にある。

### (4) 文化・教育

ナホトカ市民の日本への関心は高く、在ウラジオストク日本国総領事館が同市で開催する日本文化事業には毎回多くの市民が訪れる。2012年2月には日本映画祭を開催し、2013年2月に日本文化体験教室（浴衣の着付け及び茶道デモンストレーション等）を実施し、2014年1月には日本映画祭を開催し、同年11月には日本文化デイズとして、映画上映、浴衣の着付け教室及び折り紙教室、浴衣ショーを実施した。2016年2月に「日本酒及び日本食文化紹介INナホトカ」、2017年11月に日本文化デイズ（浴衣着付け及び折り紙体験、着物及び県道

のデモンストレーション), 2018年12月に日本産ワイン紹介講座, 2019年5月に石見神楽公演を実施した。

(了)